

TOKYO COLLEGE

共に考える未来 Shaping the Future Together

講演会

Zoom
ウェビナー



「来館者中心」の 博物館が 意味するもの

モノから人への移行を意味した「Being about Something to Being for Somebody（何かについてから誰かのためへ）」という表現は、1999年に『Daedalus』誌に掲載されたアメリカの博物館に関するステファン・ヴェイルの論考の印象的なタイトルである。この表現は数十年を経てもなお、博物館界で共鳴を呼んでいる。それは、博物館が学芸員が定めた情報や機関の目的を優先する在り方から、来館者の体験やより広い地域社会を重視する方向へと変化してきたことを象徴しているからである。ただし、その実践には課題も伴ってきた。

本講演では、長年にわたり博物館の専門家および博物館学の教育者として活動してきたレスリー・ベッドフォード教授が、ヴェイルの言葉の意味を考察し、それがどのように博物館において実践されてきたかについて検討する。ベッドフォード教授が日本で訪れた博物館の事例に加えて、来館者中心の実践に関して、日本の博物館専門家や研究者との一連のオンライン対話を通じて得られた議論の成果を紹介する。そして「来館者中心」という考え方が、今日において、そしてこれからの時代に何を意味しうるのか問う。

2025. **4.22** (火)
14:30-16:00

講演者

**Leslie
BEDFORD**

東京大学
東京カレッジ 招聘教員；
バンク・ストリート教育大学
博物館教育における
リーダーシッププログラム
元ディレクター；
ボストン子供博物館元学芸員



コメンテーター

寺田 悠紀

東京大学東京カレッジ 特任助教



司会

**Hannah
DAHLBERG-
DODD**

東京大学東京カレッジ 特任助教



主催

東京大学国際高等研究所東京カレッジ

言語

英語(日本語同時通訳)

お問合せ

東京大学国際高等研究所東京カレッジ
tokyo.college.event@tc.u-tokyo.ac.jp

要事前登録

▶ 事前登録は
こちらから



東京大学に新しく設立された「東京カレッジ」。世界の第一線で活躍する研究者や知識人を招き、市民の皆さんと一緒に未来社会の様々な側面について考える場を作ります。

Tokyo College aims to generate new knowledge to contribute to the creation of an inclusive society and spark deeper public engagement with the University of Tokyo.



facebook



X



Mail Magazine

